



会長	猪股育夫	
幹事	熊谷敏明	
会報	鈴木彦太	佐々木源悦
	布施孝尚	
例会場	ホテルサンシャイン佐沼	☎22-8180 FAX22-0327
例会日	毎週木曜日	12:30~13:30
事務所	ホテルサンシャイン佐沼	☎22-8180 FAX22-0327

第2477回例会 2014. 11. 27 No.21

本日の出席率

・本日の出席率 68%

ニコニコボックス

- ・猪股育夫会長 本日のゲストスピーカー田上佑輔様を歓迎いたします。長野白馬村の皆様地震お見舞申し上げます。
- ・佐藤敬喜会員 長男道泰が11月20日、21歳となりました。
- ・山田直志会員 本日のスピーチに田上佑輔先生をお願いしました。宜しくお願いします。
- ・鈴木彦太会員 山田直志会員のスピーチ楽しみにご期待致します。ゲストスピーカー田上佑輔先生楽しみに。
- ・布施孝之会員 田上佑輔先生のスピーチに期待して。
- ・佐藤幸一会員 山田直志会員のゲストスピーカーを歓迎し、お話にご期待いたします。
- ・飯塚仁哉会員 山田直志会員は雄弁家で立板に水の流れる如く滑らかに話されることですね。
- ・菅野幸一郎会員 猪股育夫会長から立派な写真を頂戴し、ありがとうございます。本日、山田直志会員のスピーチにご期待致します。
- ・佐藤静市会員 山田直志会員のスピーチ、ゲストスピーカーやまと在宅診療所の田上佑輔様を歓迎。
- ・菅原文之会員 築館RC50周年記念式典参加の皆様大変ご苦労様でした。山田直志会員のスピーチに期待して。
- ・佐々木源悦会員 ゲストスピーカーの田上佑輔先生を歓迎します。
- ・高橋義文会員 本日のゲストスピーカーの田上佑輔先生を歓迎申し上げます。
- ・千葉正宏会員 今日は28回目の結婚記念日です。早めに帰宅する予定です。

- ・熊谷敏明幹事以下 ゲストスピーカーを歓迎して。
村上武彦会員 佐々木崇会員 千葉吉男会員
佐竹孝行会員 遠藤光則会員 岩渕正彦会員
高橋利光会員 富士原裕子会員 武川毅会員
小野寺伸浩会員 岩渕栄市会員 佐藤早智子会員
及川富男会員
以上、ありがとうございました。

会長要件 猪股育夫会長

先ず初めにゲストスピーカーの田上佑輔先生を心より歓迎申し上げます。今日はありがとうございます。
佐沼ロータリークラブ50周年記念式典の時には、大勢参加していただきましたのでその返礼もあり、先週の土曜日には築館ロータリークラブの50周年記念式典に、佐藤幸一実行委員長、布施孝之大会会長はじめ、八谷郁夫PDG、11名で参加して参りました。築館クラブは昭和40年2月33名のチャーターメンバーで加盟認証、スポンサークラブは仙台北ロータリークラブです。記念事業は、栗原市内の5中学校にテントを寄贈、ロータリー財団に寄付、米山記念奨学会に周年記念特別寄付（累計2,000万円）の3つでした。姉妹クラブとして台湾草屯RC、ソウル高麗RCのメンバーが大勢で来訪、友好クラブの倉敷東RCからは女性の会長が参加されていました。
築館クラブは現在18名の会員で少人数のクラブです。1人で何回も同じ役をしますから宮城島堅会長は今度3回目の会長をされております。又、幹事の本間昭英さんは4回目ということです。佐沼クラブでは一生に一回しか回ってこない役割ですのでちょっとびっくり致しました。式典の参加者が約130名、盛大に、又、祝賀会では楽しく進行し、おいしい食べ物とお酒をたっぷりいただき満足して帰って参りました。これからも築館ロータリークラブの益々の発展をお祈りいたします。

幹事報告 熊谷敏明幹事

- ・菅原裕典ガバナーエレクトより
国際大会（ブラジル）の案内が届いています。
- ・川崎大師RCより
当クラブ50周年記念式典参加のお礼状及び会報が届きました。
- ・登米市社会福祉協議会より
第46回在宅心身障害児者クリスマス会の案内
日 時 12月21日(日) 10:00~
場 所 ホテルニューグランヴィア

各委員会報告

- ・親睦活動委員会（小野寺伸浩副委員長）
クリスマス家族例会のお知らせ
日 時 12月18日(木) 午後6時30分~
場 所 ホテルサンシャイン佐沼
会 費 会員5,000円
※詳細は12月1日にFAXでお知らせしますので多数のご参加をお願い致します。

今週のスピーチ

ゲストスピーカー やまと在宅診療所 登米
院長 田上佑輔様

みなさん、こんにちは。ただ今ご紹介いただきました「やまと在宅診療所 登米」の院長をしております田上です。
貴重な機会でありますので、先ず、私自身のことを知っていただきたいのと、やまと在宅診療所ではどういったことをやっているのか、そして登米市の医療に於いて私達がどういったことを目指しているのかを簡単に話したいと思っております。



ゲストスピーカー
田上佑輔院長

私は、現在34歳でまだまだ若輩ものであります。九州の熊本出身で、鹿児島県のラサール高校に入学し、全寮制の男子校で3年間過ごしました。そして、東京大学の医学部に入り6年間勉強しました。もともと医者になりたいと思っておりました。というのは、人に触れる仕事をして、常に勉強出来る仕事をしたかったと思っておりました。大人になると勉強をしなくていいとどこか思いがあり、今思えばとどの仕事も勉強の繰り返しですが……。その時は医者になって勉強したいということで医学部に入り、更に外科医になろうと思ひ千葉の100床位、医者の数が300人位の病院に行きそこで5年間研修医として研修し年間500件手術をしました。トータルで1,000人位の手術に携って、その中で私のテーマでありましたガンの手術に携っていくことになりました。手術をする中で、切った後で良くなる人と良くなる人がいて何でこんなに違うのかと思ったのと、どういう先生がほんとうに良い先生なのかということを考えるようになりました。私自身外科医としてやる以前にいい先生になりたいという気持ちが芽生えてきました。もっと広い世界を知らなければならぬということで東大の大学院で研究の仕事に携わりました。大学で研究をしていて、どこか私の中で良

い医者になりたいということを考えてながらやっていると、どうしても大学の医療に納得出来ないところがあり、自分の価値観を考える時どうしても大学の医局を飛び出さなければならぬと気付いたのが30歳の頃でした。同じ思いを持つ仲間とそういったことを話している時に東日本大震災が発生しました。その時におそらく日本中の人が何かをしなければならぬという気持ちにかりたてられたと思いますが、私自身もそういったものがあり2週間後に志津川の仮設診療所に行きましたが、現場では何も出来ませんでした。その時、医者というものが出来るもの以外で何か被災地で出来るものはないかと思ひました。医者というところから離れて一般のボランティアとして何かしようと思ひました。11月10日東京から被災地に行き子供達と小さな祭りのようなものを行いました。

1年位経った時、何となく元の状態になりつつあることを感じ、宮城県の医療整備課に電話をし東北の地域で医者がいなくて困っている病院をおしえてほしいと言いましたら、登米市民病院を紹介され、直ぐに電話で私達がお手伝いをしたいとお願いをし、東京の仲間10人位集めて毎週日曜日の夜の当直を1年位やりました。その頃は被災地のためというだけではなく、医者のいない地域で出来るだけのことをやりたいという気持ちが強くなり、その方が自分らしい生き方だと思ひようになりました。この地域では在宅診療をする医者が少ないという話を聞き、院長、市長さん達との話し合いで登米市民病院の1ヶ所の建物を借りて診療させていただいております。「やまと在宅診療所」として開業して1年半位経ちました。現在150名位の患者を診させていただいております。診療所といっても来ていただくのではなく、病院に行けない人、又は、夜急変があった時に対応してほしいという方の往診をしています。ドクターが車で患者の家を回っています。最近では色々なものが進化し、例えば超音波の検査、採血の検査であれば家に行き来出来ますし、電子カルテを使用していますので、入院が必要であればその場で処方せんをつくる事が出来ます。

私達の仲間と東北大の先生と合計7名位で24時間365日対応させていただいております。片道車で30分~40分位の地域の方々の往診をしています。

普段生活している環境に戻ると認知の機能が正常化します。ガンの患者も家で診るとなんとなく痛みがおさまったり、病院の中で診るとは違ったことが見られます。患者が希望する医療を受け毎日安心して過ごせるように応援していきたいと思ひます。

— 紙面の都合上、主旨を掲載させていただきました。



田上佑輔先生のスピーチに感動して
記念撮影する会員